

学芸会、鑑賞に来てくださった保護者の皆様ありがとうございました。6年生としての最後の学芸会、無事終わることができました。

6年生は、『人間になりたがった猫』を演じました。この物語は、人間に憧れる猫のライオネルが、魔法使いの力で人間になり、ブライトフォードの町で様々な出会いをし、成長していく物語です。この1か月、子供達は、演技の練習はもちろん、小道具作りや背景作りなどに励み、学芸会を成功させるために頑張ってきました。



一人一人、役割ごとに違った頑張りがありました。主人公のライオネルは、セリフの数が多く覚えるのに苦労したと思います。魔法使いステファヌスは、ゆったりした話し方と、威厳があり迫力のある話し方を使い分ける練習を繰り返していました。町娘ジリアンは、生活に困っているけれど芯のある気の強い娘の二面性のある演技、アウルバードはジリアンを思いやる演技が難しいです。スリは町の人に溶け込んでお金を取る動きを自然に行い、勝負師はちょっと可笑しく、けれど悪そうな雰囲気を出すのがポイントです。兵隊は統率されたそろった動きの練習をし、お店屋さんは自分のお店で売るもの作りに一生懸命取り組んでいました。また、特に難しいのは猫と町の人です。猫は人間ではない猫らしい動きを研究し、町人は自分にセリフがないときの自然な動きを続けていなければいけません。なるべく、棒立ちのままではいなく、自分たちで動きを考えました。

6年の劇は、巨大な吊るし背景やたくさんの豪華な音響はありませんが、子供達が自分たちで考え、作り上げました。

子供達も、行事の少ない中、この学芸会を遠して成長することができたのではないかと思います。6年生は、残り登校する日も70日ほどとなりますが、短い時間の中でたくさんの思い出を作っていきます。